

一般質問

3月定例会



安部 丘 議員

Q 町営火葬場の在り方を問う

最後のお別れの場所として、飯南町火葬場は貴重な資産である。

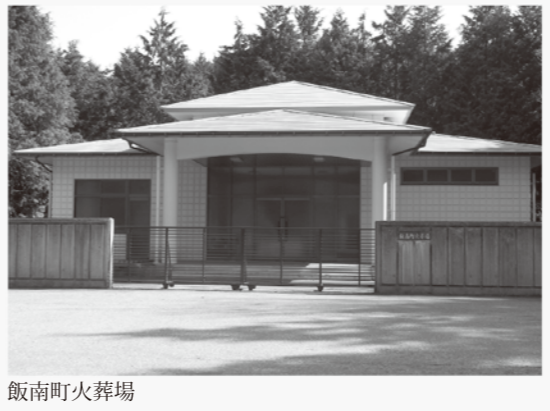
国税庁の「耐用年数の適用等にかかわる取扱いの通達」では、火葬設備は16年と規定されている。飯南町火葬場は、平成2年に建設され、今年で28年目を迎えるが、定期点検と必要に応じた修繕が行われており、今のところは安全に稼働できている。

しかしながら、施設は老朽化し、最後のお別れをするのに

相応しくない環境となっている。近隣の同様施設と比較してもその差は歴然である。

私も、この施設を利用したが、家族や親族の気持ちに、今少し寄り添った空間を提供することが望ましいと感じる。これは、施設を利用した人の多くが感じていることでもある。

飯南町火葬場の設備や運営のあり方について見直すべき時期が来ていると思うが、町長の考えを問う。



飯南町火葬場

A 改善に努める



雲南市三刀屋斎場受付



ロビーと待合室



町長 山崎 英樹

保有する公共施設の利用状況や老朽化を勘案し、更新・統廃合・長寿命化など施設の最適化を計画的に進めるため、平成29年3月に飯南町公共施設等総合管理計画を定めた。

これに基づき、現在は飯南町公共施設有効活用検討委員会において検討している。この中で、火葬場は長寿命化により引き続き機能を維持するという基本方針だ。

火葬場そのものは、平成2

年に鉄骨造りとして建設したものが、平成25年度に新しい火葬炉に更新した。

建物自体は、建設後28年を経過しているが、鉄骨建築の耐用年数は38年となっており、今のところ支障なく稼働できる状況にある。

指摘にあった運営面においては、縁のあった人々が故人を偲びながら、最後の「お別れ」に相応しい場であるよう、今一度確認し改善に努める。

一般質問

3月定例会



景山 登美男 議員

Q 仕事と子育ての両立を

平成30年度の町内小学校4校の新1年生は34人と聞いている。島根県の共働き世帯は78.2%で全国1位ということだが、本町ではほとんどの世帯が共働きである。

そのような世帯で、子どもの面倒をみる方がいない家庭では「小1の壁」に直面することになる。またこのことは、小学3年生くらいまで続くと思われる。

そこで、本町ではそうした子どもを持つ保護者が安心して



児童クラブで仲良く健やかに過ごす様子

※共働きやひとり親世帯において、子どもの小学校入学を期に、仕事と育児の両立が難しくなること

仕事ができるような環境づくりが、どのような状況になっっているか問う。

①放課後の対応はどうなっているか。

②夏休みなどの長期休業中はどうか。

③臨時休校などの緊急時の対応は。

子育て支援の質・量の充実によって、子育てしながら仕事を続けることができる社会の実現を図るべきと考えるが、町長の決意は。

A 要望に応えたい



教育長 矢飼 斉

①平日の「放課後子ども教室」を町内4地区で行っている。時間延長の要望があるが、指導員の確保が困難な状況である。

②町全体を対象に1ヶ所で児童クラブを運営している。頼原公民館でも、午後に限って実施している。

③緊急時対応可能な制度として、ファミリーサポートセンター事業を実施している。保育所の保護者への広報には努めてきたが、小学校の保護者には周知が十分ではないので、周知に努めたい。

これらの課題については現在アンケート調査を実施している。その結果を踏まえ、保護者の要望に応えられる事業になるようにしたい。

A 支援の拡充に努力

町長 山崎 英樹

これまで、子育て支援については、住民の力を借りながら、さまざまな制度の充実を図ってきたつもりだが、教育長の答弁にあったように、まだまだ課題がある。

また、仕事と子育てを両立させるために、行政のみならず、住民の力や企業の支援が必要だ。

今後も、子育ての現場に即した一層の支援拡充に努めて行く。

